

【井手町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

井手町では、令和3年3月に「第5次井手町総合計画」を策定し、「自ら学び、自ら考え、判断する力を育む教育を推進し、次代を担う子どもたちが確かな学力を身に付けるまちをめざす」ことを達成目標としています。その目標達成のために取り組むことの一つとして「教育施設・教育環境の整備充実」を掲げています。具体的には、ポストコロナ時代に向けたまちづくりやデジタル改革の進展に合わせ、学校教育の質的改善や情報教育に資するため、学校ICT環境の整備とその有効活用に積極的に取り組み、また新たな時代に対応した教育内容や指導方法の改善と充実に向け、教育機器や教材・教具の整備を図ることとし目標の達成に努めております。

この目標の実現に向けて、学校や生徒の実情を踏まえた上で、効果的・効率的にICTを活用した新たな教材やアプリ、学習活動を積極的に導入することで、児童生徒の資質・能力の育成を推進していきます。

2. GIGA第1期の総括

(1)経緯と現状

井手町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度に小・中学校の児童生徒に1人1台端末を整備しました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。令和6年5月に実施した京都府学力・学習状況調査での児童生徒質問紙によると「授業で、ICT端末を使う機会がある。」での肯定的回答は京都府平均より10%程度高くICT端末の活用は進んでおります。

(2)ICT施策の実施内容

ア 教育支援設備の導入

小中学校の各教室に大型ディスプレイを整備し、教育支援設備の充実を図りました。またICT支援員を配置し、ICT活用に係る教職員の負担軽減と授業の質の向上に努めてきました。

イ 学習活動の充実

整備したICT環境を活用することで、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT端末を用いた発表など、さまざまな学習活動を行えるようになりました。

(3)課題

小中学校における授業内での ICT 端末の活用は進んでおり活用の場面を確保するという面では一定成果は出ています。今後は ICT 端末を活用し主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善にどうつなげていくか、得た情報の活用方法について学ぶ情報リテラシーの指導が今後の課題であると考えています。また、授業や校務での ICT 活用頻度に教職員間で差があることも課題として挙げられます。

3. 1人1台端末の利活用方策

井手町では、GiGA スクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持します。情報リテラシーの指導を充実させるとともにその効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。

また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していきます。

(1) 1人1台端末を積極的に活用するために

教職員研修の充実に加え、全国や府内の好事例の共有や各校での校内研修の実施を通じて、ICT 端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。また、既存の授業支援アプリの活用を推進し、ICT を活用した効果的・効率的な授業改善を支援します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実を図るために

1人1台端末を活用し、児童生徒の課題解決能力の向上を目指しています。AIドリル等の導入により、個別に適した学習環境を提供し、学力向上を目指します。

(3) 全ての児童生徒の学びを保障するために

全ての児童生徒が平等に教育を受けられるよう、ICT 端末を活用した授業を推進していますが、不登校児童生徒への支援のさらなる充実も推進します。自宅や校内教育支援センターから授業に参加できる仕組みの整備等、多様な学習機会の提供に取り組んでいます。